

高等学校事情

第3回 東海エリア

今号で取り上げるのは東海エリアの静岡県と愛知県。静岡県では近年2度の入試制度改革を実施。再編整備事業により設置が進む公立高校の総合学科の志願倍率が上昇しつつある。愛知県は、地元大学進学率が3年連続全国1位。全国唯一の複合選抜制は、高い公立人気を支える要因となっており、日常的に行われている進路・学習指導で進学実績を伸ばしている。

静岡県

静岡県のアウトライン

都市圏への流出で地元大学進学率が低迷

文部科学省『2010年度学校基本調査』によると、静岡県における18歳人口は3万7360人で、過去5年間は全国10位で推移している。

高校数は公立101校、私立43校の計144校（特別支援学校を除く）、生徒数は公立約6万6800人、私立約3万1600人（定時制を除く）で、合計約9万8400人である。

図表1 18歳人口と進学率の推移

| 年度 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 18歳人口(人) | 42,112 | 40,121 | 38,167 | 36,786 | 37,360 |
| 大学等進学率(%) | 50.7 | 52.1 | 52.6 | 54.3 | 54.3 |
| 地元大学進学率(%) | 24.9 | 24.3 | 24.5 | 25.8 | 26.6 |
| 地元短大進学率(%) | 52.6 | 54.4 | 54.0 | 57.1 | 60.5 |

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
 ※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。
 ※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。

大学等進学率は5年前の約50%から徐々に上向き、2009年度は54%台に乗った。一方、地元大学進学率は過去5年間25%前後とそれほど変化が見られない。県内にある大学・短大の数が28校と比較的少なく、首都圏や中京圏への交通の便も良いことから、県外の大学も視野に入れた志望校選びが行われている。

高校の現状① 改革の取り組み

進路の選択肢を広げる総合学科の倍率が上昇

静岡県教育委員会は、2000年度から2010年度までを見通した「静岡県立高等学校長期計画」を掲げている。しかし、計画立案時の見込み以上に生徒数の減少が進んだことから、2005年に計画を見直し、生徒のニーズに、より適切に対応した高校の設置を趣旨とする「静岡県立高等学校第

二次長期計画」を立案。2005年度から2015年度までを期間として取り組んでいる。これらの計画に基づいた高校再編整備事業により、2000年度に99校だった県立高校は、2010年度までに93校となった。

県教委は第二次計画に「普通科、専門学科、総合学科の生徒割合を67:30:3から65:25:10となるよう検討」と、明確な数字を提示している。中でも、普通教育と専門教育のどちらも選択履修できる総合学科の設置は進路の選択肢を広げることにもつながっており、現在までに7校設置されている（図表2）。総合学科を有する高校の平均志願倍率は、2008年度の1.03倍から2011年度は1.09倍と、徐々に上昇傾向にある。

2002年度からは、中高一貫教育校の設置にも着手。現在までに、併設型の浜松西高校、清水南高校、沼津市立沼津高校、連携型の川根高校、佐久間高校、松崎高校の計6校が設置されている。2002年度に中高一貫教育がスタートした浜松西高校は、東京大学や京都大学への合格者が毎年輩出するなど進学実績が高く、初年度の中等部志願倍率は約6倍、現在も約3倍の倍率を保つ人気校となっている。また、高校入試がない分、資格取得の指導に力を入れるなど、一貫校ならではの教育が行

図表2 総合学科のある公立高校

| 高校名 | 系列(学科) |
|-------|---|
| 伊豆総合 | 文化国際、情報理数、看護健康、ビジネス教養 |
| 小笠 | 人文国際、自然科学、健康、芸術、農業科学、情報技術、ビジネス情報 |
| 裾野 | 人文国際、自然科学、情報ビジネス、会計ビジネス、福祉介護(ヘルパーコース)、福祉介護(福祉教養コース) |
| 富岳館 | 国際教養、社会科学、自然科学、生物生命、建設デザイン、情報ビジネス、健康福祉 |
| 藤枝北 | 園芸科学、食品科学、情報科学、環境化学、自然科学、人間社会 |
| 遠江総合 | 人文社会、自然科学、食品園芸、機械技術、電子情報、ビジネス、ライフデザイン |
| 浜松大平台 | 人文科学、自然科学、花と緑、国際情報ビジネス、福祉・健康、芸術・デザイン |

われている。

キャリア教育にも特徴的な試みが見られる。科学技術高校工業科（定時制）が実施した「トリプルシステム」だ。インターンシップ先の企業での実習と自校での学習に加えて、近隣の県立技術専門校で技能を高めるといふ、三者が協力して行うキャリア教育だ。現在は趣旨に賛同した企業間での「トリプルシステム協力会」も発足し、定期的に会合を持ちながら推進している。その一方で「受け入れの負担が大きい」という企業の声もあり、マッチング体制の整備のため、県教委と静岡労働局、経営者協会間で話し合いを持ち、キャリア教育推進の検討会発足をめざしている。

高校の現状② 入試制度改革

2度の入試制度改革で学区を廃止

静岡県は近年2度の入試制度改革を行っている。まず2003年度に、それまでの推薦入試を、自己推薦で出願できる全県一区の前期選抜と、従来の学力検査を行う後期選抜に分けた「前・後期制」を導入した。

しかし、長引く入試期間に中学校

などから疑問の声があり、5年後の2008年度にさらに改革を行い、「前・後期制」を廃止。1回の選抜の中で、個々の高校が特色に応じて選抜方法を独自に設定、実施する「学校裁量枠」と、県共通の選抜方法で行う「共通枠」の2枠を設け、一般選抜として実施する方式となった。出願は2つの枠は別にせず、1校1学科への手続きとなる。

選抜手順は、まず学校裁量枠の選抜を行い、そこで合格とならなかった生徒が共通枠の選抜対象となる。学校裁量枠には実技検査など希望者のみを対象とした選抜方法もあり、希望しない生徒は、共通枠のみでの選抜となる。2011年度入試では、全日制公立高校99校のうち88校が学校裁量枠を設定している。

サッカー実技（藤枝東）、「ものづくり」に関するプレゼンテーション（島田工業）、英語のコミュニケーション・表現の適応力（静岡城北）など、独自の選抜方法による学校の特色づくりが進んでいるようだ。

2008年度には、この入試制度改革と同時に、学区を廃止、全県一区とした。すでに前・後期制によって定員の最大50%を県内全域から受け入れていた高校もあり、各校の志願倍率などに大きな影響は出ていない。

進路指導の特徴

特化した指導で進学実績を伸ばす私学

進路指導の特徴的な取り組みとして、浜松北高校や静岡高校、磐田南高校といった進学校十数校の進路指導教員による「進学指導連絡会」がある。連絡会では、進路指導に関する情報交換や、国公立大学の入試問題の評価・分析などが行われている。

この連絡会に参加する富士高校は、土曜講座などで学習時間を確保、定期的な学習実態調査と細かな面接で生徒の成績状況を常に把握し、進路・進学指導に反映させている。2011年度入試では、東京大学5人、京都大学4人、大阪大学8人を含む国立大学の現役合格者180人を出すなど、進学実績は高い。

一方、私立高校では中高一貫校が進学実績を伸ばしている。県東部にある加藤学園暁秀高校では、「特進クラス」と「進学クラス」を設け、生徒の習熟度や能力に合わせた少人数制のゼミ形式の授業を実施。また、国語と保健体育以外の教科を英語で学ぶ「バイリンガル部」を併設し、ネイティブの教員が授業を行っている。2011年度入試では、東京大学4人、京都大学1人を含む44人の国公立大学合格者を出している。

同様に県東部にある星陵高校も、東京大学、京都大学を含む国公立大学合格者66人を出すなど進学実績を伸ばしている。静岡は、もともと公立高校の人気が高い県ではあるが、地域によっては前述のように私立高校も台頭してきている。公私の関係性について、今後は一概に公立優位とは言いきれない状況のようだ。

高等学校事情

校の2校を統合したうえで東山工業高校敷地内に校舎を新設、2015年の開校をめざす。



日常的に行われる進路・学習指導

公立高校の志願者が多い理由として、複数回受験可能な入試制度のほかに、好調な大学進学実績も挙げられる。この進学実績を支えているのが、伝統的に行われている密度の高い進路・学習指導だ。

学期ごとに複数回行われる進路指導のほかに、日常的に個別の面談や学習指導が行われている。職員室前の廊下に机が並べられ、生徒が休み時間や放課後に進路や学習の相談ができる指導体制は、毎年東京大学や京都大学に30人以上の合格者を出す岡崎高校や明和高校などの進学校を中心に、多くの高校で見られる。

開校26年目、県内の公立高校の中では歴史の浅い知立東高校では、個別面談に加えて「学習記録調査ノート」を生徒と教員が毎日記録し、個々の生徒の能力・適性・希望進路に応じたカリキュラム、習熟度別学級編成による指導に取り組んでいる。

一方、私立高校では東海高校や滝高校、南山高校といった中高一貫の進学校が医学部医学科への進学指導に力を入れ、公立との差別化を図っている。今年度、東海高校から出た236人の国公立大学(東京大学・京都大学を含む)合格者のうち、105人は医学部医学科合格者だ。同校では、冊子「大学をどう選ぶか」を用いたガイダンスや、大学教員・医師による講座などを実施している。

愛知県



地元大学進学率が3年連続で全国1位

文部科学省『2010年度学校基本調査』によると、愛知県の18歳人口は6万8662人で、東京都、大阪府、神奈川県に次ぎ全国第4位だ。

大学等進学率は2010年に60%を突破して60.1%(全国第6位)となった。また、地元大学進学率は過去5年間70%を超えており、3年前からは全国1位が続いている(図表1)。

高校数は国立2校、公立165校、私立55校の計222校(特別支援学校を除く)で、生徒数は国立約920人、公立約13万1900人、私立約5万8900人(定時制を除く)で合計約19万2000人。2007年の約18万7000人を底に反転し、徐々に増加を見せている。公立高校は、再編整備により5年前に比べると10校減少したが、それでも校数・生徒数ともに県全体の約7割を占めている。

図表1 18歳人口と進学率の推移

| 年度 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 18歳人口(人) | 73,775 | 72,086 | 69,254 | 68,460 | 68,662 |
| 大学等進学率(%) | 55.7 | 57.7 | 58.4 | 59.1 | 60.1 |
| 地元大学進学率(%) | 70.5 | 71.7 | 71.3 | 72.1 | 72.6 |
| 地元短大進学率(%) | 87.6 | 87.0 | 89.6 | 89.2 | 89.1 |

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
 ※大学等進学率は、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。
 ※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。

高校の現状① 入試制度

公立2校に出願可能な全国唯一の複合選抜制

愛知県の高校入試は、公立高校全日課程で実施されている「複合選抜制」に特徴がある。1989年度に導入され、現在は愛知県のみで実施されているこの入試制度には「推薦入試」と「一般入試」があり、推薦入試はすべての全日課程の高校・学科で実施される。一般入試は、県内の公立高校をA・Bの2グループに分ける。普通科のみ地域を考慮し、各グループを2地区に分け、さらに1・2群に分ける。志願者は自身の地区の1・2群どちらかを選択したうえで、A・B各グループのいずれか一方、または両方から各1校に出願できる(図表2)。A・Bのグループは試験日が異なるため、公立高校を2校受験することも可能になる。

また、専門学科と総合学科は群に属さない全県一区のため、グループが異なっていれば普通科同様2校受験でき、「普通科と専門学科または総合学科」「専門学科と総合学科」という組み合わせも可能だ。

一般入試と推薦入試を合わせると、計3回公立高校を受験する機会が設けられている。2007年度入試からは新たに1・2群両方に属する「共通校」が設定され、受験できる高校

の組み合わせと選択肢が増えた。愛知県教育委員会は「一般入試で2校受験できることで公立高校受験の関口が広がり、それが公立高校人気につながっている」としている。

高校の現状② 改革の取り組み

キャリア教育を中心に高校教育改革を推進

県教委は2001年度から2010年度まで、「県立高等学校再編整備実施計画」に基づき、魅力と活力ある学校づくりを推進してきた。2010年度までに9校に設置された総合学科、「植物バイオテクノロジー」「自動車工学」などの専門学科、「国際コミュニケーション」「コスモサイエンス」といったコース制の導入など、多様化する生徒のニーズに対応してきた。

さらに、県内初となる連携型の公立中高一貫校も2校設置した。2004年度開設の田口高校と2010年度開設の新城東高校作手校舎(旧作手高校)だ。田口高校は、連携する北設楽郡内の中学校3校との間で教員が相互訪問し、中高交流授業やサマーセミナーを開催、地域に根ざした学校づくりに取り組んでいる。

現在、県教委は、新たに2011年度から2015年度までの県教育基本振興計画「あいちの教育に関するアクションプランII」の4つの重点項目である「道徳性・社会性の向上」「キャリア教育の充実」「学習意欲の向上・学力育成」「生涯学習の充実」に基づいた教育を推進する中、公立高校の教育改革に取り組んでいる。

中でも力を入れているのがキャリア教育の推進だ。社会人講師の派遣や公募型インターンシップなどを実施。

図表2 全日課程・普通科の群及びグループ分け(2011年度入学者選抜)

| | 普通科 | | | |
|-------|--|--|--|--|
| | 尾張第1群 | 尾張第2群 | 三河第1群 | 三河第2群 |
| Aグループ | 旭丘 惟信 昭和 熱田 豊明 日進西 犬山南 江南 小牧 一宮北※ 一宮南 尾西※ 津島※ 海翔※ 半田東 常滑※ 内海※ 市立緑 市立名東 | 明和 松蔭 名古屋南 瀬戸西 春日井 春日井西 高蔵寺 長久手 新川 一宮 一宮北※ 尾西※ 津島※ 津島北 稲沢東 海翔※ 常滑※ 東海南 大府 内海※ 市立向陽 市立山田 | 衣台 豊田北 豊田南 足助※ 岡崎 岩津 一色※ 豊橋東 豊橋西※ 成章※ 御津※ 新城東(本校)※ 田口※ | 足助※ 岡崎西 刈谷 安城 西尾東 知立 高浜 一色※ 豊丘 豊橋西※ 成章※ 国府 御津※ 新城東(本校)※ 田口※ |
| Bグループ | 名古屋西 中村 鳴海 天白 春日井東※ 日進 東郷 犬山※ 尾北 小牧南 丹羽 一宮西 木曾川※ 半田 阿久比※ 東浦※ 武豊※ 市立菊里 市立富田 | 千種 守山 瑞陵 瀬戸 春日井東※ 春日井南 旭野 犬山※ 西春 一宮興道 木曾川※ 津島東 美和 五条 横須賀 大府東 阿久比※ 東浦※ 武豊※ 市立桜台 市立北 | 豊田西 豊田 豊野 松平 加茂丘※ 三好 幸田※ 刈谷北 吉良※ 豊橋南 福江※ 蒲郡東※ | 加茂丘※ 岡崎北 幸田※ 碧南 安城東 安城西 西尾 知立東 吉良※ 時習館 福江※ 小坂井 蒲郡東※ |

※は1・2群共通校

2010年度は全日課程立高校149校のうち143校からインターンシップへの参加があり、2011年度は全校からの参加をめざす。また、県教委は、小学校から高等学校まで発達段階に応じた職業意識の育成を後押しするため、2011年度は、県独自に、自らの将来を考えるためのワークシート「キャリア教育ノート」の作成を進めている。

高大連携では、県教委が名古屋大学や名古屋工業大学などと共同で「知の探究講座」を開催するなどの取り組みも見られるが、県教委によると、高校独自で高大連携を行う場合、大学との関係により、高校によって取り組みにかなり差があるという。

2011年5月には県教委が県内49大学と連携推進会議を開き、高大連携事業の方針等を協議した。そこで、高校・大学それぞれのニーズをすり合わせる「高大連携マッチングサイト」の展開を提案。高校生向けに行う大学講座やイベントの告知、県教委や市町村教委、高校などからの情報を掲載し、高大連携の窓口として活用していく予定で、2011年度中の開設をめざしている。

2008年度から実施されている「愛知スーパーハイスクール研究指定推進事業」は、2011年度にリニューアル

された。それまでは、先進的な取り組みを推進する事業だったが、より幅広い取り組みを支援する「県立学校アクティブチャレンジ事業」として再スタート。学力向上のための授業改善、地域に根ざした独創的な教育活動など、各校の意欲的な教育活動を支援し、県立高校全体の活性化をめざす。2011年度は「魅力ある授業づくり部門」5校、「スポーツ・文化芸術部門」6校、「地域貢献部門」10校が、書類審査と企画コンペの審査を経て指定されている。

そのほかの特徴的な事業として、高校再編整備計画とは別に、2006年から推進されてきた総合技術高等学校(仮称)の設置計画がある。これは、県の工業系教育の中核となる総合技術高校を設置し、県産業の伝統を継承しながらさらに発展させていくための人材育成を目的としている。

学科は「本科(3年制)」と「専攻科(2年制)」で構成され、専攻科への進学は、本科卒業生だけでなく外部からも可能だ。専攻科は、企業や大学と連携し、より実践的な技術・技能の修得をめざすもので、本科だけでは取得の難しい「技能士2級」や、大学卒業レベルの「電気主任技術者資格」などの資格取得に向けた指導を行う。愛知工業高校と東山工業高